

論文審査の結果の要旨

本論文では、中国における農民工の現状と、農民工の歴史的な変遷とその原因を考察するものである。農民工の発生原因は、外生的な要因としての都市部での労働力需要の存在を肯定しつつも、内生的な要因は中国農村部の貧困にある、という仮説が立てられる。

序章では、研究課題の設定と問題意識、先行研究の考察が取り上げられる。第1章では、「戸籍制度と農民工問題」と題され、農民工概念が歴史的にも変遷してきた点、定義の問題、農民工の基本構成および都市部での農民工調査事例が詳細に紹介される。これらの農民工の発生由来は農村の貧困であるとの論旨の骨格に基づいて、第2章「中国農民の悲劇」では、農地なし農民の存在、農業の低収入の実態、強制的農地買収、食糧価格の国家統制などの諸問題が論じられる。第3章では、中国南部および中国沿海部では顕著な郷鎮企業の発展があったことは周知の事実であるが、中国の東北地方では様々な要因が絡み合って郷鎮企業が十分な展開を見なかったと論じられる。大連市周辺の郷鎮企業経営者への聞き取り調査などが紹介される。では次に、中国農村の貧困の原因は何に求めるべきかに論点が移行し、第4章で詳述される。貧困脱出のための政府の施策が失敗していく過程もユニークである。筆者は、貧困が再生産されている現状を教育・人材育成政策の失敗、教育に投資できない現実の問題として取り上げている。

以上のように、問題の設定から独創的な観点が見られ、農民の貧困からの脱却が困難であることが実証される。しかしながら、広州地域に代表される珠江デルタ地帯の経済発展モデルとの差異はどのように説明すべきかについては課題も多い。本論文は、先行の諸研究、仮説の立て方、現地調査の諸成果など独創的な部分が多くあり、長年の研究の足跡が認められる。

学位論文としての条件を備えていると評価できる。従って、学位を授与することを妥当なものと判断する。